



「わがむら」発行の趣旨 私塾・長善館は、燕市の粟生津地区にありました。そこに住む私たちには末永くこの遺産を守り後世に伝えていく責務があります。それには、地域の大人も子供も「地域の宝」である長善館に足を運んで、関心を持ち、よく理解し、さらには誇りに思っていくことが大切です。その一助として、本紙『わがむら』を年2回発行しています。

第8回 保育園児と老人会の長善館かるた会 老人会が一矢報いるも 園児勝利!

11月6日、粟生津保育園の年長児及び年中児チーム、粟生津地区老人会の寿美礼会&寿会チームが各9グループに分かれて熱戦を繰り広げました。結果は**1回戦**の「つばめっ子かるた」は**9戦全勝**で園児チームの勝ち。**2回戦**の「ジャンボかるた」は接戦の末**26枚対18枚**で園児チームの勝ち。**3回戦**「百人一首の坊主めくり」は何とお年寄りチームが**5勝3敗1分け**で平成30年の第3回以来の勝利を収めました。**最終結果は2対1で園児チームの優勝!** 子どもたちは大喜びでした。今年も満杯となった長善館の会場には熱気と歓声と笑顔があふれ、楽しいかるた会になりました。



あおうづ 歴史散歩 No.3

③ 長谷川鉄之進 生誕地碑

燕市下粟生津 393 番地-1



西川に架かる瑞穂橋から堤防上の県道を横切り、国道116号線に向かう坂道を下ったすぐの道路沿いの左側にある。石碑は長谷川家の入口に建ち、**燕市指定文化財**である。

長谷川鉄之進は1822(文政5)年、下粟生津村庄屋の長谷川誠之の四男に生まれる。名は正傑、字は**強庵**と号した。鉄之進は通称である。

1836(天保7)年 15歳で鈴木文臺の長善館に入門し、11年間勉学に励む。先生の代講も務め、塾生の指導もする。26歳で江戸に出て学び、私塾を開く。32歳の時に黒船が来航。塾を閉じ、**尊皇攘夷**を唱えて日本各地を遊説する。

1864(元治元)年、激動の長州にあって一隊を組織してその長となり、蛤御門の変の戦闘に加わる。四国・京都・奥羽・越後と巡り、**戊辰戦争**では官軍の嚮導として活動する。

明治維新後は京都に住み、1871(明治4)年に病を患い50歳で波乱の生涯を閉じた。京都霊山護国神社に墓があり、坂本龍馬や中岡慎太郎などの志士らと葬られている。

長谷川鉄之進生誕地碑の全景→
参考文献:「越後吉田ふるさと事典」燕市吉田郷土史研究会



シリーズ 長善館 Q&A NO.22

長善館に関する質問に対して、分かりやすく説明していきます。参考文献は『長善館餘話』『越北の鴻都 長善館』『長善館ものがたり』など長善館に関する史料です。なお、子どもたちも読めるようにフリガナを付けています。

質問 ⑭ 長善館で学んだ著名な塾生たちの業績を教えてください。 その5-2 住民の幸せのために各地で公共事業に勤んだ塾生たち

⑳ 柳下安太郎

1852(嘉永5)年～1903(明治36)年
現 長岡市寺泊出身

柳下安太郎は幼くして長善館に入塾し、鈴木文臺や楊軒に学びました。

安太郎は勤皇の志が厚く、万事に熱誠で温厚であり、かつ慈悲に富んでいました。1868(慶応4)年に王政復古や倒幕が叫ばれる中、17歳で寺泊の郷友である窪沢円一、五十嵐伊織らと勤皇を志し戊辰戦争に加わります。

奥州にまで転戦して幕府軍平定に功績を挙げました。奥州の激戦では窪沢円一が戦死。安太郎は遺骸を秋田市の正洞院に手厚く葬り、故郷に遺品を送りました。

また、京都で死亡した五十嵐伊織の遺髪を持ち帰って、五十嵐家の聚感園内に小祠を建てて祀るなど友情に厚いものでした。明治天皇巡幸の際には特別拝謁を賜りました。

↑五十嵐伊織の祠

その後、家業の醤油製造に精励する傍ら1887(明治20)年に寺泊町長となり大河津新道工事を完成させました。1896(明治29)年には寺泊銀行を創設、初代専務として地方金融界に貢献しました。さらに、日本石油の発起人や三島郡会議長の要職にあつて地方の公益事業に尽くしました。51歳で亡くなりました。

㉑ 山宮竹次

1853(嘉永6)年～1887(明治20)年
現 燕市地蔵堂出身

山宮竹次は、大河津分水の桜の育ての親として有名な山宮半四郎の次男です。1868(明治元)年、16歳で長善館に入塾して鈴木楊軒に学びました。

1872(明治5)年20歳で官立東京師範学校に入学し明治7年6月に最優秀の成績で卒業。その時、卒業生代表で「小学校教授法」を明治天皇の天覧に供しました。

その後、文部省指令書をもって兵庫県に赴任して一等訓導、教育会議委員を務め、1877(明治10)年25歳で

神戸師範学校の校長に任官されました。

翌明治11年、郷里である地蔵堂の要請を受けて地蔵堂小学校の校長になります。そこでは、自分の月給で教育機器の充実や疫病流行への寄付により賛辞を受けますが、体調を崩して2年間も自宅静養しました。



↑神戸師範学校

その後、竹次は郷里の文化や勸業のために先進地神戸の息吹を伝えようと適切に助言をしました。また、産業発展のため地蔵堂銀行設立にも寄与しました。一方では、自分自身の体調不良を改善するための療養は不十分でした。

1883(明治16)年には31歳で再び兵庫県に戻り神戸師範学校の校長になりますが、体調を崩し1年半後には帰郷しました。35歳で生家で亡くなりました。

㉒ 長谷川勝二郎

1855(安政2)年～1919(大正8)年
現 燕市下粟生津出身

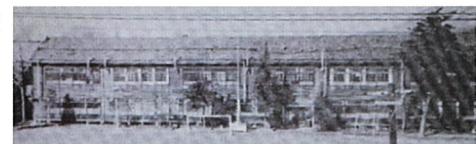


長谷川勝二郎は、雀森の里正で後に来納津村初代村長となった幸田三郎の次男です。長じて下粟生津里正の長谷川四郎(鉄之進の生家)の長女と結婚し、長谷川家11代として家を継ぎます。

1868(明治元)年、13歳で長善館に入塾して鈴木楊軒に学びました。明治7年に戸長、1889(明治22)年には粟生津村の初代村長となりました。しかし明治25年に病気を理由に辞職しますが、明治29年に再選され1902(明治36)年に県会に当選するまで村長として尽力しました。その間、特筆すべきは粟生津小学校と下粟生津小学校の統合問題を解決し、粟生津駅近くに統合校舎を新築したことでした。

また、1911(明治44)年から大正8年までの8年間粟生津村の助役を務め、褒賞や感謝状を受けること数回に及び地方自治に尽くしました。

65歳で亡くなりました。



↑粟生津小学校と下粟生津小学校の統合校舎